

「日々の理科」(第 2562 号) 2021, -7, 19

## 「ノート不要の時代? (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

教師は「発問と板書」、児童は「挙手とノート」というのが「伝統的な」日本の授業スタイルだ。私はそういう授業を受けて育ったし、過去30年以上そういう授業をしてきた。しかし、ここに来て状況は一変しつつある。



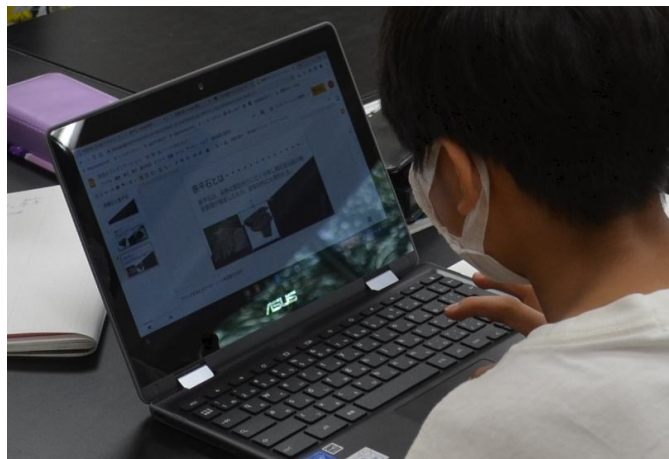
現在本校の児童には、一人一台のノートパソコンかタブレットが貸与されている。5年生も一人一台の「クローム・ブック」を持っていて、ほとんど自由に使いこなしている。7月はこれを理科の授業で活用している・・・というより、試みている。



この日は2つの研究課題を与えてみた。

- (1) 台風の被害と恩恵について
- (2) 黒曜石と鉄平石について

前者は教科書の内容、後者は8月末に予定されている霧ヶ峰の林間学校に向けての調べ学習ということになる。



子どもたちはあっという間に検索語を思い浮かべ、どどど的な確なページにヒットしていった。面白かったのは、「霧ヶ峰・鉄平石」などと検索をかけると、「日々の理科」がヒットしてしまうことだ。実は霧ヶ峰方面の黒曜石、鉄平石に関しては、日々の理科のバックナンバーが一番詳しい内容のようである。



子どもたちは実物の鉱物・岩石を見たいというので、用意しておいた。黒曜石は林間学校の宿泊地に近い、長野県和田峠産のものだ。古代人が矢じりや石斧に使っていただけあって、断口は鋭い。子どもたちはその輝きと鋭さに歓声をあげていた。

鉄平石のほうは実物がなかったのので、同じ岩石種の「輝石安山岩」を見せてあげた。「どちらも宿舎の裏庭で拾えますよ!」と教えると、「絶対拾う!先生にもあげます!」と意気込んでいた。

今回の調べ学習の成果(まとめ)は、ノートに書いても良いし、クロームブックに直接打ち込んで良いことにした。ほとんどの子どもは、クロームブックにまとめていた。私は「5年〇組サイエンスルーム」というフォーラムを作成し、そこに子どもたちが投稿できるようにした。最初は私も不慣れだったが、少しずつ慣れてくると、実に機能的とわかってきた。